

# 令和2年産 大麦栽培暦

氷見市農業技術者協議会

日	9			10			冬期間			4			5			6								
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下						
生育段階				発芽			分けつ期			幼穂形成期			節間伸長期			出穂期・開花期			成熟期					
主な作業	排水対策の徹底 条件・可能な限り団地化とする 大麦の連作は2年までとする ほ場に直ちに排水対策ができる早生又はWCS後ほ場 排水が良いほ場			耕起・施肥・播種・作溝の1連作業を1日で完了する 種子の準備(種子消毒) 土壌改良資材の施用			大麦の収量確保には初期生育の確保が大切です 発芽・苗立確保のポイント ・稲刈り直後の排水対策を徹底し砕土率を高める ・播種時期とほ場に応じて播種量を増やす ・播種作業は10月上旬、遅くとも10月中旬までに終わるように計画する			排水溝の手直し (降雪前に随時実施)			排水溝の手直し (融雪水の排水)			赤かび病防除 2回目(1回目から7日後) 1回目(播種期)			カラスノエンドウの抜取り 収穫(水分30%以下から刈取開始) 乾燥(仕上げ水分は12%とする) 調製(レーダーの節目は2・3mmを用いる)			麦跡にハトムギを作付ける場合は、大麦収穫後できるだけ早く播種する 草刈りや耕起で雑草対策に努める(カメムシ対策) 土作りのため鶏糞の施用(反に百kg以上)や 緑肥作物(クロタリリア等)を作付ける		

## 収量と品質目標

単収	350kg/10a
品質ランクA格付	100%
容積重	690g/l以上
細麦率	2.2mm(篩)下に2.0%以下
白度	43以上
硝子率	40%以下

## 土壌改良資材施用 pH6.0~6.5を目標に

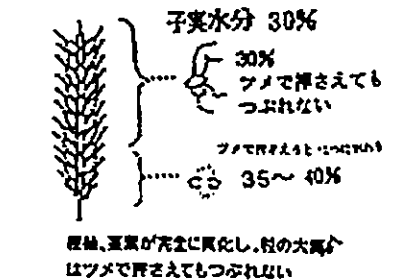
前作	資材名	耕起前(kg/10a)
WCS以外	苦土石灰	100
WCS	珪酸石灰	120
	牛糞堆肥	1500

## 肥効調節型肥料の施肥量

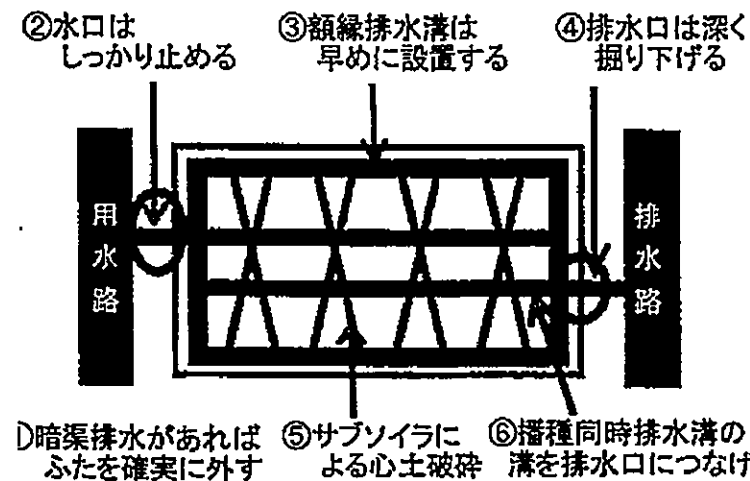
	粘質土	壤質土	砂壤土
LP大麦48号(kg/10a)	40	40	40

※原則として追肥は行わない

## 刈取期の目安



## 排水対策の徹底



## 種子の準備 播種時期に応じた種子の確保

播種時期	目標苗立数(本/m <sup>2</sup> )	播種量の目安(kg/10a)
9月25~30日	140	6
10月上旬	150	6.5
10月中旬	200	8.5

- ・余裕を持って計画的に種子を準備しましょう
- ・排水の悪いほ場や播種が遅れた場合は、0.5~1kg/10a播種量を増やしましょう。

## 種子消毒

- ・ベンレートT水和剤20の乾燥種子重量の0.5%粉衣(種子10kgに水200mlを加え湿らせ、薬剤50gを入れ混和)

## 播種作業 乾いたほ場から順次開始

- ・耕起・施肥・播種・作溝の1連作業を1日で完了する
- ・遅くとも10月中旬までに播種を終える
- ・サイドリッチャーによる溝は20cmより深く掘る
- ・溝は必ず深く掘り下げた排水口に連結する

## 除草剤の散布

薬剤名	使用時期	使用量(/10a)
キックボクサー細粒剤F	播種後 出芽前	3~4kg
ムギレンジャー乳剤		400~600ml (希釈水量50~100L)

※表面散播では使用できないので注意

## 赤かび病防除 赤かび粒の混入限度は0.0%

- ・穂揃期(開花始め)とその7日後との2回防除を徹底
- ・降雨が続いていても、晴れ間を見て確実に防除しましょう

	液剤体系	粉剤体系
1回目の薬剤 穂揃期(開花始め)	トップジンM水和剤 1000倍(150L/10a)	トップジンM粉剤DL 4kg/10a
2回目の薬剤 1回目の1週間後	シルバキュアフロアブル 2000倍(150L/10a)	ワークアップ粉剤 3kg/10a